

火山速報(仮称)について

～ 登山者等に対する迅速かつ的確な情報の提供～

「噴火発生の観測事実を伝える「火山速報(仮称)」について

目 的	登山者や旅行者など火山を訪れる人々が、命を守るための行動が取れるよう、噴火発生の観測事実を、迅速、端的かつ的確に知らせる。
新たな情報の名称	「 噴火速報 」としたい
情報の内容	「噴火の観測事実」のみ 火山名 ○○山 噴火速報 平成 年 月 日 時 分 気象庁地震火山部発表 * * (見出し) * * < ○○山で噴火が発生 > * * (本 文) * * ○○山で、平成 年 月 日 時 分頃、噴火が発生しました。
発表基準	初めての噴火、または噴火警戒レベル引き上げの検討が必要と考えられるような規模の噴火を確認した場合。 視界不良により遠望カメラで確認できない場合は、地震計・空振計等のデータを用いて推定する。
対象とする活火山	常時観測火山
電文の形式	XML電文

火山速報(仮称)の名称について

噴火発生を観測事実を伝える「火山速報(仮称)」名称の選択肢

- A案 「火山速報(噴火)」の名称を用いる。
- B案 「噴火に関する火山速報」の名称を用いる。
- C案 「噴火速報」の名称を用いる。

各選択肢のメリット・デメリット

名称	メリット	デメリット
A案 火山速報(噴火)	火山の速報という枠組みをイメージしやすく、噴火以外の現象を速報する場合でも使用できる。	後段の括弧書きの部分が放送で読み上げる際に判りづらい。
B案 噴火に関する火山速報	火山の速報という枠組みと噴火の現象をイメージしやすい。	「噴火に関する火山観測報」、「火山の状況に関する解説情報」と混同しやすい。
C案 噴火速報	噴火の現象を速報していることが、イメージしやすい。	「噴火警報」と混同しやすい。

噴火が発生したことを端的かつ早急に知らせることをイメージできる
C案「噴火速報」としたい。
以降、本資料では噴火速報と標記している。

「噴火に関する火山観測報」と「噴火速報」

噴火に関する火山観測報

内容

火 山: 桜島
日 時: 2014年10月02日08時09分(012309UTC) 第1報
現 象: 噴火
有色噴煙: 火口上1200m(海拔6600FT)で上昇中
白色噴煙:
流 向: 北

高層風 0122Z
850-18012
700-2101
6 500-24024
火口: 昭和火口
今年370回目

発表基準

現象として以下の事象を観測した場合
・ 噴火を確認した場合。
・ 噴火していることが推定される場合。
・ 噴火が継続している場合。
・ 継続的な噴火が停止した場合。

主な用途

航空機の安全確保 その他、降灰への備えにも利用

発表回数

赤字:
噴火を後で確認
した回数を含む

	西暦	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
	平成	19	20	21	22	23	24	25	26
雌 阿 寒 岳			2						
浅 間 山			3	14					
御 嶽 山		1							64
三 宅 島			2	4	4			1	
阿 蘇 山						38			10
霧島山(新燃岳)			1		7	13			
桜 島		42	80	755	896	994	1105	1097	562
諏 訪 之 瀬 島		70	194	216	283	51	3	276	44
発表回数合計		113	282	989	1190	1096	1108	1374	617

噴火速報

火山名 ○○山 噴火速報 第1号
平成△△年△△月△△日△△時△△分 気象庁地震火山部
(見出し)
<○○山で噴火が発生>

(本文)
○○山で、平成△△年△△月△△日△△時△△分頃、噴火が発生しました。

初めての噴火、または噴火警戒レベル引き上げの検討が必要と考えられるような規模の噴火を確認した場合。

登山者や旅行者など火山を訪れる人々の安全確保など

	西暦	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
	平成	19	20	21	22	23	24	25	26
雌 阿 寒 岳			1						
浅 間 山			1	1					
御 嶽 山		0							1
三 宅 島			0	0	0			0	
阿 蘇 山						1			1
霧島山(新燃岳)			1		2	1			
桜 島		1	3	3	1	0	0	0	0
諏 訪 之 瀬 島		0	0	0	0	0	0	0	0
発表回数合計		1	6	4	3	2	0	0	2

「発表基準」に基づき、過去の噴火事例について、検証した結果。

「噴火に関する火山観測報」は、噴火が継続している場合は6時間毎に発表、また、噴火が発生する度に発表されるため、発表回数が多くなる。新たに発表する「噴火速報」は、初めての噴火、噴火警戒レベル引き上げの検討が必要な場合に発表するので、頻繁に発表されない。

【参考】噴火速報の仕様について

利 用 者 : 火山周辺の防災機関や地域住民、観光客等。
特に登山者等、火山に立ち入っている人を意識。
(TV・ラジオ・携帯端末等を活用して伝達することを想定)

利用の想定: 登山などで立ち入っている山が噴火したことを迅速に伝えることにより、身の安全を図っていただくことを想定。

提供方法 : XML電文、防災情報提供システムで提供する他、気象庁HPに掲載

- 速報は新たなXML電文により提供予定。気象庁が用いている電文構造を基本として、既存の火山関連XML電文に追加することでXMLユーザが扱いやすいものとしている。
- 電文のヘッダ名は、VFVO56: 噴火速報として新たに準備する。

【参考】XML電文構築のポイント

- 噴火速報のXML電文は、既存の噴火に関する火山観測報をベースに構築した。
- 管理部(control)、ヘッダ部(head)については、“とりうる値”の追加のみとし、現状のタグ構成が変わらないようにした。
- 再配信の利便のために対象市町村(噴火警戒レベル3又は入山危険の対象市町村)を内容部(body)に入れ込むようにした。
- 内容部(body)には、見出しや注意事項を明確化するため、噴火警報を参考に、噴火に関する火山観測報”のXML電文にはない、以下のタグを追加した。
 - <VolcanoInfoContent>: 火山関連情報の内容
 - <VolcanoHeadline>: 見出し
 - <VolcanoActivity>: 火山の活動状況等
 - <VolcanoPrevention>: 防災上の警戒事項等
 - <Appendix>: 補足

【参考】噴火速報のXML電文案

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<Report xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/"
xmlns:jmx="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/">
  <Control>
    <Title>噴火速報</Title>
    <DateTime>2014-09-27T03:00:12Z</DateTime>
    <Status>通常</Status>
    <EditorialOffice>気象庁本庁</EditorialOffice>
    <PublishingOffice>気象庁地震火山部</PublishingOffice>
  </Control>
  <Head xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/informationBasis1/">
    <Title>火山名 御嶽山 噴火速報</Title>
    <ReportDateTime>2014-09-27T12:00:00+09:00</ReportDateTime>
    <TargetDateTime>2014-09-27T11:53:00+09:00</TargetDateTime>
    <TargetDTDubious>頃</TargetDTDubious>
    <EventID>20140927120000_312</EventID>
    <InfoType>発表</InfoType>
    <Serial />
    <InfoKind>噴火速報</InfoKind>
    <InfoKindVersion>1.1_0</InfoKindVersion>
    <Headline>
      <Text><御嶽山で噴火が発生></Text>
      <Information type="噴火速報">
        <Item>
          <Kind>
            <Name>噴火</Name>
            <Code>52</Code>
          </Kind>
          <Areas codeType="火山名">
            <Area>
              <Name>御嶽山</Name>
              <Code>312</Code>
            </Area>
          </Areas>
        </Item>
      </Information>
    </Headline>
  </Head>
```

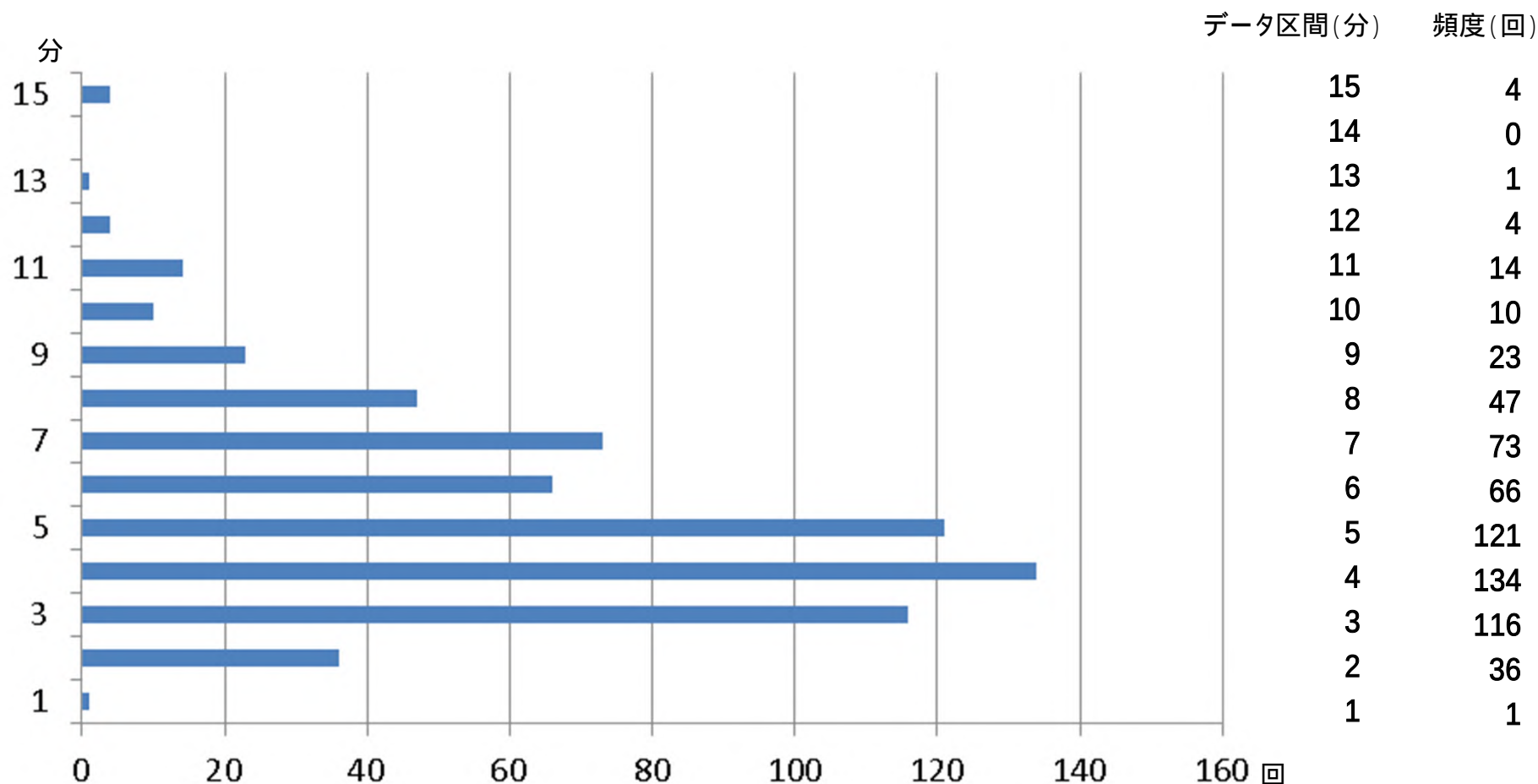
- “噴火に関する火山観測報”のXML電文をベースに構成
- 赤字部分が“噴火に関する火山観測報”からの変更点

(右へつづく)

```
<Body xmlns="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/body/volcanology1/"
xmlns:jmx_eb="http://xml.kishou.go.jp/jmaxml1/elementBasis1/">
  <VolcanoInfo type="噴火速報">
    <Item>
      <EventTime>
        <EventDateTime significant="yyyy-mm-ddThh:mm" dubious="頃">2014-09-27T11:53:00+09:00</EventDateTime>
        <EventDateTimeUTC significant="yyyy-mm-ddThh:mm" dubious="頃">2014-09-27T02:53:00Z</EventDateTimeUTC>
      </EventTime>
      <Kind>
        <Name>噴火</Name>
        <Code>52</Code>
      </Kind>
      <Areas codeType="火山名">
        <Area>
          <Name>御嶽山</Name>
          <Code>312</Code>
        </Area>
      </Areas>
    </Item>
  </VolcanoInfo>
  <VolcanoInfo type="噴火速報(対象市町村等)">
    <Item>
      <kind>
        <Name>噴火</Name>
        <Code>52</Code>
      </kind>
      <Areas codeType="気象・地震・火山情報/市町村等">
        <Area>
          <Name>長野県王滝村</Name>
          <Code>2042900</Code>
        </Area>
        - - - 略 - - -
      </Areas>
    </Item>
  </VolcanoInfo>
  <VolcanoInfoContent>
    <VolcanoHeadline><御嶽山で噴火が発生></VolcanoHeadline>
    <VolcanoActivity>御嶽山で、平成26年9月27日11時53分頃、噴火が発生しました。</VolcanoActivity>
    <VolcanoPrevention />
    <Appendix />
  </VolcanoInfoContent>
</Body>
</Report>
```

- “噴火に関する火山観測報”のXML電文にはない、対象市町村のタグと以下のタグを追加
 - ✓ <VolcanoInfoContent>
 - ✓ <VolcanoHeadline>
 - ✓ <VolcanoActivity>
 - ✓ <VolcanoPrevention>
 - ✓ <Appendix>

【参考】 噴火に関する火山観測報(第1報)の発信までの時間(桜島) (平成26年1月1日～平成26年12月31日まで)



5分以内に発信した事例は、視界不良により噴煙の高度や流向が不明の場合が多い。
不明により確認する項目が少なかったことが、理由と考えられる。